

1 学校教育目標

○考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ◆子供も教師も明るく生き生きと輝いている学校 ◆子供・教師・保護者・地域の願いや想いを大切にする学校 ◆保護者・地域から「おらが学校」として信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ◆明るく生き生きと自己を表現する子供 ◆人や自然と積極的に関わり、共に生きる子供 ◆思いやりの心を持ち、目を輝かせて学び、遊び、働く子供
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ◆子供と共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ◆子供のよさを認め・励まし・高める教師 ◆日々の授業の充実を目指して、挑戦する教師 ◆学校運営やPTA、地域行事にすすんで取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

創立129周年を迎える、歴史と伝統のある学校である。学校全体が落ち着いた雰囲気の中で、教育活動が展開されている。教職員一人一人が、学級の児童や全校児童に積極的に関わり、熱意をもって教育活動にあたっている。

○確かな学力の育成について

- ・4月に実施した区学力調査の結果をもとに分析とつまずきの克服を行い、多くの児童について改善を図ることができた。一方で本調査は通過していた児童の正答率が低下する傾向も見られた。パワーアップタイムや家庭学習、ICT機器等を活用し、計算やつまずきの多く見られる内容について、反復学習を意図的・計画的に継続実践していく必要がある。
- ・説明的な文章を読み解く力、文章を組み立て書く力、文章問題等を筋道立てて解く力、計算を速く正確に解く力、図形を正確にかく力の育成を重点的に行う必要がある。
- ・児童一人一人の定着状況をしっかりと把握し、放課後補習やサマースクール等を組織的に、計画的に実施していく必要がある。
- ・家庭との連携により、毎月の家庭学習チェックウィークの目標時間（学年×10分+10分）を毎日達成できるように励ましたり、ICT機器やAIドリルを活用し個に応じた指導を行ったりするなどして、児童が自信をもつことができる取組が必要である。
- ・全校で読書目標を決め、読書活動に親しむことに取り組んでいる。全児童が目標を達成することができるよう、学校図書館の有効活用や時間の確保を行う必要がある。

○豊かな心と健康な体づくりについて

- ・道徳授業や人権教育の実施、毎週のいじめや生活の様子に関する情報交換、いじめアンケート後の指導など、組織的な対応力を強化する必要がある。
- ・挨拶、返事、聞く態度のルールを全校で徹底して指導している。礼儀正しい挨拶をできる児童が増えている。
- ・高学年児童の言動を通して、周りの人に対する感謝の気持ちをもつことが広く浸透している。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心と健康な体づくり					
3	幼保小中連携の推進					

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン				
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
基礎的・基本的内容の定着、活用力の育成		4月実施：国語80%以上 算数80%以上		自己評価の際に記入		
		2月実施：国語75%以上 算数75%以上 (4月実施の現学年の調査内容)				
B 目標実現に向けた取組み						
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)
1 継続	朝学習 パワーアップタイム	全学年	毎週 火曜日 木曜日 金曜日 8:25～ 8:40	【指導者体制】担任 【取組みのねらい・目的】 基礎的・内容的定着、向上 【使用教材】漢字、語彙力、 読解小問題、短作文、音読 集、計算練習、東京ベーシ ックドリル、まず計算、作 図問題、文章問題、AIド リル等	ワークテ スト、ミニテ ストを実施し確 認する。	各教科のワーク テスト、ミニテ ストで正答率8 0%以上。
自己評価の際に記入						

2 継続	放課後指導	全学年 国語・算数 区調査目標 値未到達児童 単元テスト 等の結果、 定着が不十分 な児童	毎週 月曜日 火曜日 木曜日 金曜日 放課後 20分	【指導者体制】 担任＋副担任 【取り組みのねらい・目的】 ○学力調査で判明した前学年までのつまずきを解消する。(前期) ○ワークテストや小テストで正答率80%未満の児童が、解けなかった問題の解き直しや理解が完全ではない内容の復習・確認を行う。 【使用教材】 AIドリル、ベーシックドリル、次へのステップ、区・都・国調査問題、区調査復習問題等	ワークテスト や小テスト等 の再テストを 行う。	区調査問題、ワークテスト、ミニテストで正答率80%以上。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> 自己評価の際に記入 </div>	
3 継続	朝読書 読書	全学年	毎週水曜 8:25～ 8:40 図書の時 間	【指導者体制】 担任 【取り組みのねらい・目的】 ○多くの読み物を読むことを通して、活字に慣れ、語彙を増やす。 ○始業前に気持ちを落ち着け、学習の構えをつくる。 【使用教材】 図書室や家庭から持参した本	読書通帳	1～3年生、年間50冊。4～6年生、年間5000ページ80%以上の達成。		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> 自己評価の際に記入 </div>
4 継続	家庭学習チェックウィークの実施	全学年 全児童	年8回 7～3月 各月1週 間	【取り組みのねらい・目的】 ・家庭において、すすんで学習に取り組む習慣や、自分で内容を考え学習に取り組む態度を身に付ける。 ・目標時間を設定(10分×学年+10分)し、毎日の宿題・自学の内容や方法を確認する。	1週間のチェックシート	家庭学習提出調査100%。 1日平均学習時間が目標時間を達成した児童の達成率95%以上。		

5 継続	授業改善・ 授業力向上	若手教員	年間 80 回の教科指導 専門員による 指導 年間 2 回校内 研究会 の実施	【指導者体制】教科指導専門 員＋管理職 【取り組みのねらい・目的】 若手教員の授業力の向上、授 業の課題解決を図る。若手教 員は年間 6 回以上の授業研 究を行い、足立スタンダード に基づいた授業力を身に付 ける。 【取り組みのねらい・目的】 低中高学年 1 回ずつ、算数科 の研究授業を実施し、全教員 で協議を行うことを通して 授業の改善を図る。	授業観察、授 業評価	児童による授業 アンケートの満 足度 80%以上
6 継続	区学力調査 の自校採点 と分析・対 策	全教員	区調査 実施日 後、1 週 間以内 毎月実 施の学 力向上 委員会	【取り組みのねらい・目的】 区学力調査の自校採点お よび学級ごとの S P 表作 成を行い、分析を直ちに行 う。分析結果を朝学習や家 庭学習の内容に反映させ、 つまずきの多い内容の指 導に生かす。 【対策内容】正答率が低く、 問題の解説や繰り返しの 練習が必要な内容を、年間 を通して練習し、解けるよ うにする。	区学力調査の 再調査	区学力調査の再 調査での通過率 85%以上
7 継続	I C T の活 用	全児童 全教員	年間 4 回の I C T 機 器の活 用に関 する校 内研究 会実施	【取り組みのねらい・目的】 児童一人 1 台のタブレッ ト環境を有効に利用した 授業改善を行う。教員・児 童の活用スキルを向上さ せる。	授業観察、授 業評価	児童による授業 アンケートの満 足度 80%以上

自己評価の際に記入

8 新規	A Iドリルの活用	第3学年以上の児童	算数習熟度別指導	【取り組みのねらい・目的】 ・児童のつまずきを把握する。(単元プレテスト) ・授業内容の定着具合を確認する(確認テスト) ・放課後学習の効率化を図る。 ・そだち教室でのつまずき解消の教材として、定着具合を確認するツールとして活用する。 ・家庭と連携して、発達段階に応じた家庭学習や自主学習の課題として活用する。 ・反復学習を行う。	区調査通過率	2月調査通過率80%以上	自己評価の際に記入
		国語・算数・理科・社会	放課後指導 そだち指導 家庭学習		単元末テスト結果 家庭学習チェックシート、そだち指導卒業テスト結果、家庭学習目標時間達成率	単元末テスト80%以上が学級で9割以上	

重点的な取組事項－2		豊かな心と健康な体づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童同士の良好な関係づくりと体力向上		児童アンケートでの児童、保護者の満足度90%の達成 体力調査で都平均を60%上回る	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめや友達関係の状況把握と良好な関係の指導	児童、保護者アンケート90%以上の肯定的な回答	ふれあい月間での調査実施と教育相談の改善、週1回の情報共有	自己評価の際に記入		

周りの人に対する感謝の気持ちを表現やあいさつの励行	児童、保護者アンケート 90%以上の肯定的な回答	全児童・開かれた学校づくり協議会を中心とした挨拶運動の実施	自己評価の際に記入
体力向上	体力状況調査で都平均を60%以上上回る。	体育科授業の計画の見直し、改善 体力向上計画	
健康な生活習慣の確立	早寝70%、早起き80%、朝ごはん95%以上	年2回生活習慣改善週間を実施、調査 養護教諭による保健指導を全学級で実施	

重点的な取組事項－3		幼保小中連携の推進		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
幼保小の連携、小中の連携した教育を推進し、円滑で良好な接続の活性化	園児と児童の交流2回、中学生と児童との交流2回、小中全教員の研究会8回	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み				
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題
近隣幼稚園保育園との連携、交流	園児と1年生の給食や交流行事を年2回以上行う。 本校就学予定児童を対象に入学体験会を年3回以上実施する。	年間計画に基づき交流活動を実施する。	自己評価の際に記入	

小中連携	授業参観を年2回、授業公開を2回実施する。連携中学校との児童・生徒に関する情報共有を年1～2回実施する。	小中連携の日に学力向上をテーマに、授業を参観・協議し、研修を深める。	<div data-bbox="1447 188 1827 240" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
------	--	------------------------------------	--

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）